

図書教材新報

Books
teaching
materials
magazine

Vol.223

今月の特集

- ①教材活用シリーズ この一冊で復習はバッチリ☆
青葉出版の「冬休み教材」「しあげ教材」(P. 6~7)
- ②第37期学校教材調査会 総評【数学科・理科・英語科】(P. 8~10)

図書教材新報
Books teaching materials magazine

2023.11.25 Vol.223 (total 1852号)
1956年1月5日 創刊 毎月25日発行

英語教育の課題

一般社団法人日本図書教材協会副会長
星槎大学特任教授

新井 郁男



英語が小学校でも第五学年から教科として教えられることになった。学習指導要領では、教科としての外国語教育の目標として、「音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解するとともに、(中略)話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。」と規定されている。しかし、

これまで見聞した限りでは、このような目標に従って英語の授業は行われてはいない。外国語は数千あるが、言語学では形態論として、

- ① 膠着語
- ② 屈折語
- ③ 孤立語

に分類されている。日本語は膠着語、英語は屈折語である。具体的に、英語と日本語の違いについて、教育の観点から重要と思われる点のひとつは発音である。

英語の語尾は子音で終わるのに対して、日本語は母音で終わる、また、日本語には「r」という音は存在しない。

フランス語やドイツ語も英語と同じように屈折語に属するが、現代の英語は16世紀以降に発達した新しい言語で、他の言語の影響を受けながら発達してきた。文法を修得しただけでは活用が難しい言語である。国際語となっている英語を早くから学ぶことは重要ではあるが、日本では日常生活において活用する場面はないのが現状である。そうした点をふまえて考えると、会話ができるようになるということよりも、英語を日本語と比較しながら教えるという学習指導要領で提起されていることこそ重要であろう。といっても現場の教師にとっては容易なことではないのではなからうか。

ということ、当協会として日本語と比較しながら指導するための図書教材を作成したらどうであろうか。これからの教材開発に期待する。

学第35回研究発表大会、総会開催

今年もオンラインで実施

テーマ「近未来の教材を考える」と題してシンポジウム

日本教材学会（澤崎眞彦会長）では、10月21、22日の二日間にわたって、オンラインにて第35回研究発表大会を開催し、会員を中心に、学者、教師、教材出版社、販売店、学生等が参加した。大会一日目は、自由研究発表、シンポジウム、二日目は、自由研究発表、研究プロジェクトが催された。合わせて、一日目には理事会、二日目には総会を開いた。

◎シンポジウム

テーマ「近未来の教材を考える」

シンポジウムでは、大会実行委員長の福山大学・小原友行教授によるコーディネートのもと、「近未来の学びに求められる教材とはどのようなものか」「なぜそのような教材が求められるのか」「具体的にはどのような教材開発が必要になるのか」について、「教育ヴィジョン研究」「教材のデジタル化」「多文化共生教育」「個別最適な学び」という異なる視点から、それぞれの専門の立場からの具体的な提案があった。

▼広島大学・草原和博教授

「教育ヴィジョン研究の視点から」
「教材の民主化―作り、働きかけ、再構築される対象として―」

▼奈良女子大学附属中等教育学校・二田貴広教諭

「教材のデジタル化の視点から」
「翻って紙媒体の教材価値」

▼広島大学・南浦涼介准教授

「多文化共生教育の視点から」

「ことばと文化の『のびしろ』と『異質さ』を重ね合う『できなさ』を補う教材からの脱却に向けて」

▼上智大学・奈須正裕教授

「個別最適な学びの視点から」
「個別最適な学びにおける教材―環境による教育という教育方法の下で―」

◎研究プロジェクト、自由研究発表

研究プロジェクトは2件、自由研究発表は26件の発表があった。研究プロジェクトは、それぞれ「学習への没入を促す「畏敬の念」を喚起する授業原理と方法―学習の道徳基盤の解明を目指して―」、「教材と教科教育の研究―データサイエンスの活用について考える―」をテーマに発表と質疑応答があった。

また、理事会・総会では、事業報告・決算、事業計画・予算案等について、いずれも承認された。

ダブルトライからCOM-PASSへ...

好評

COM.-PASS 理科

1・2・3年

啓東 旬

定期テスト対策は『COM.-PASS 理科』が最適!!

ステップC 定期テストにそなえよう → 数単元ごとに散りばめて掲載。

COM.-PASS
理科1 1年



COM.-PASS
理科2 2年



COM.-PASS
理科3 3年



短いスパンで学習できる

記述問題や思考力を要する問題も掲載



物理分野(2回)
化学分野(3回)
地学分野(3回)
生物分野(2回)

計9~12回分(学年・準拠により相違)をご用意。

※上記は啓林1年の場合で、計10回分を掲載。

作図問題もあり

とうほう 東京法令出版 株式会社 〒380-8688 長野市南千歳町 1005 ●Tel 026-224-5411 ●Fax 026-224-5419 ●https://toho.tokyo-horei.co.jp/

10月3日

中学校営業部長会を開催

中学校営業部長会(幹事長・辻田吉平秀学社(営業部長)では、第2回営業部長会を名古屋市「安保ホール」で開いた。

当日は、各都道府県協会総会の報告や自治体に働き掛けていくための宣伝物の作成、みらいの学びプロジェクトについて協議し、今後の方針を確認した。

そのほか、物流対策の一環として作成する学校宛の説明文(ひな型)のたたき台や営業部長会ブロック担当について検討した。

10月10日

小学校営業部長会を開催

小学校営業部長会(幹事長・廣木真人教育同人社営業本部販売グループチーフマネージャー)では、第2回営業部長会を「協会会議室」で開いた。

当日は、各都道府県協会総会の報告や自治体



営業部長会(上:中学校、下:小学校)

今年度も実施中!

教材士研修制度
基礎コース講座

会員販売店と加盟出版社を対象とした体系的な研修制度『教材士研修制度・基礎コース講座』(オンデマンド形式)を実施しています(今年度の期間:2024年3月末まで)。

特にICT関係の講座では、最新の情報を盛り込むなどリニューアルしています。

申し込み受付中ですので、社内研修等の一環として是非ご活用ください。申し込みは協会ホームページ(会員ページ)からお願いします。

10月11日

業界ネットワーク委員会を開催

業界ネットワーク委員会(委員長・小沼武士 日本標準経営企画室全社情報課リーダー)では、「協会会議室」とオンラインで会議を開いた。

当日は、次年度に向けた商品マスター作成ルールの見直しやシステム改修項目について協議した。

10月12日

業務委員会を開催

業務委員会(委員長・近藤哲生文溪堂商品

2024年度版

リスニング
リハーサル 12

英語 入試対策用

最新入試で全面リニューアル

- 最新の入試実例リスニングで全問を構成
- CDは問題文と英文を別トラックに録音
- 放送全文、全文和訳、解法のコツがわかる「実戦テクニック」など、充実したてびき

定価(税込)360円 A4判 全12回
2色刷り大判てびき・教師用音声CD付

信頼をつちかい 学びで未来をひらく
株式会社 浜島書店

〒466-8691 名古屋市昭和区阿由知通2-1-1
TEL 052-733-8040(代) FAX 052-733-8977

http://www.hamajima.co.jp/



物流部長)では、「協会会議室」とオンラインで会議を開いた。

当日は、各社での受注方法や返品対応、来年度の小学校教科書採択状況、受注・出荷状況の発信方法、運送会社対応、物流の2024年問題等について情報交換を行った。



業務委員会

10月14日(小学校)、20日(中学校) 全静岡県協会研修会を開催

静岡県協会(川上忠男会長)では、出版社合同研修会を静岡市「中島屋グランドホテル」で小・中学校別日で開催した。

加盟社が発行するデジタル教材を販売店が教育委員会や学校に説明できるスキルを身につけることを目的に開催し、販売店にとっては有意義な機会となった。

10月20日

九州ブロック勉強会「九州ブロックネクストスタディ」第7回を開催

九州ブロック(中井寛代表)では、第4回のネクストスタディを大分市「J・COMホールホテル大分」で開いた。

当日は、九州ブロックをはじめとする会員販売店、加盟出版社、全図協事務局より約85名が参加し、全図協・渡部竜士専務理事による「変化する教育行政、そして私たちは何を提案するか」、中国ブロック・皿田弘美代表による「改革に揺れる地方教育の現状」販売店の存在意義を考える、高野哲久小学部会長による「私たちがサポートできる令和の日本型教育とは？」と題した講演会と参加者によるグループディスカッションを行った。



九州ブロックネクストスタディ

九州ブロックでは、今回のネクストスタディで一区切りとし、今後は新しい体制で勉強会企画を検討していく予定。

10月21日

全群馬県協会、第44回親睦ソフトボール大会

第44回目となった今回は、群馬県伊勢崎市「華蔵寺公園総合運動場」で開催した。

会員販売店及び出版社から総勢約90名が参加し、地区別の4チームと出版社の2チームの計6チームで優勝を競い合った。

また、例年通り(財)群馬県教育振興会への賛助金の贈呈も行われた。

令和6年度版テスト 新企画

新時代のデジタル採点ペン 手入力0時間

採点から集計が大幅時間短縮!

総合所見・道徳など

所見文例自動生成

条件にあわせて自動作成

席がえ・クラス編成 機能

校務負担軽減

同時に実現!



個別最適な学び

単元別タブレットドリル



デジタル プレテスト

デジタル 見なおしシート + フォロー問題

小学

学びのトビラをひらく 新学社

京都 〒607-8501 京都市山科区東野中井ノ上町 11-39 TEL. (075) 501-0510
東京 〒162-0841 東京都新宿区払方町 14-1 TEL. (03) 5225-6011

2023年（令和5年）11月25日 図書教材新報

10月28日

全 島根県協会研修会を開催

島根県協会（加田敏子会長）では、若手研修会を兼ねての研修会を松江市「サンラポーむらくも」で開催した。

当日は島根県協会より18名、担当出版社より3名、事務局より2名が出席。全図協・渡部専務理事による「業界の課題と展望」と題した講演のほか、参加者による分科会を行った。

全 各ブロックで会議を開催

11月の全図協理事等諸会議に備えて、各ブロックではブロック会議を開き、新学期販売分析や諸課題について検討している。

◇ 東北ブロック

10月13日にいわき市「ホテルハワイアンズ」で開催。各協会役員17名が出席。各協会からの活動報告や教師用の取り扱いについて情報交換。

◇ 四国ブロック

10月21日に善通寺市「旧善通寺偕行社」で開催。各協会役員12名が出席。

来年5月にブロック会議と並行して「業界の明日を考える会」を開催することを確認。各協会に物流対策文書の活用等の周知を依頼。

◇ 北信越ブロック

10月27日に南魚沼郡「湯沢グランドホテル」で開催。各協会役員14名、加盟出版社2社より2名が出席。

〓 都道府県協会 会員だより 〓

☆ 代表者・商号・住所変更のあった会員 ☆
△ 代表者変更 △

東京都（小学）：・ 榊竹田教学社（江東区）
新代表・服部真樹

岡山県：・ 関西教材（岡山市）
新代表・高谷純平

ル」で開催。各協会役員14名、加盟出版社2社より2名が出席。

各協会からの活動報告や物流の2024年問題への対策について確認。

◇ 南関東ブロック

10月28日に新宿区「TKP新宿カンファレンスセンター」で開催。各協会役員20名、加盟出版社2社より2名、全図協事務局より1名が出席。

小・中学別に分科会を開催し、それぞれの諸課題やブロック小・中学部会での取り組みについて協議。

◇ 東海ブロック

10月28日に名古屋市「安保ホール」で開催。各協会役員11名、加盟出版社2社より3名が出席。

全図協事業の確認や各協会の活動状況を報告。出版社への要望事項を協議。

学宝社の **マイペース** 入試対策教材

2024年度用 全面改訂

冬休み教材は **ラインアップが充実!**

共に豊かな教育をめざす **学宝社** 〒454-0011 名古屋市中区山王4-5-10
TEL (052) 322-1171 FAX (052) 332-1960 <https://www.gakuho.co.jp/>

教材活用シリーズ 第164回

☆日図協加盟出版社の発行している教材について、実際の授業における活用例、より効果が得られるポイント（場面・方法）などをご紹介します。

この一冊で復習はバッチリ☆ 青葉出版の「冬休み教材」「しあげ教材」

青葉出版(株)
「冬休み教材」
「しあげ教材」



©2023 San-X Co., Ltd. All Rights Reserved.

青葉出版(株)
編集部 季節教材編集チーム

はじめに

復習する時間をとりたいけれども、授業内で時間をつくるのが難しい……。教材を準備する時間がない……。日々の学習の振り返りが児童に大切なものとわかっていても、復習のための時間や手間は、多忙な先生方にとって大きな負担となります。

そんな先生方のお悩みを解決するのが、青葉出版の「冬休み教材」「しあげ教材」です。本教材は、冬休みや学年末にこれまでの学習を振り返りながら、基礎・基本の定着に、効果的に

ご活用いただけます。

1. 選べる教科数！ 量よし！ 質よし！

冬休み前までの復習ができる冬休み教材には、『冬のトライ』と『ステップアップ冬』の二種類があります。『冬のトライ』では国語・算数の二教科、『ステップアップ冬』では国語・算数に加え、理科・社会・英語の五教科の復習が可能です。

また、一年間の総復習ができる、しあげ教材にも冬休み教材と同様に二種類があり、『しあ

げの名人』では二教科、『しあげの達人』では五教科の復習が可能です。当該学年だけではなく、前学年までの復習もできる内容となっております。さらに国語と算数には活用問題も付いています。この一冊さえあれば、復習も次学年への準備もバッチリです。

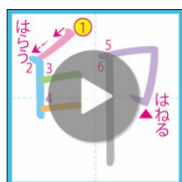
本誌の内容だけでもご満足いただける構成ですが、本教材は、従来の紙にプラスして、無料付録の各種デジタルコンテンツをご活用いただくことで、学習効果をより一層高めることができます。「解説動画を見る」↓「本誌の問題に取り組む」↓「補充問題に挑戦する」、この黄金の3ステップで、児童の復習と自主学習をサポートします。

2. 充実のデジタルコンテンツ

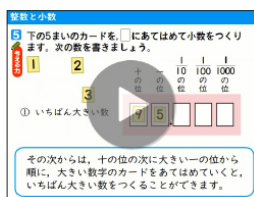
「冬休み教材」「しあげ教材」の両方でもご利用いただけるデジタルコンテンツとして、次のものをご用意しています。

①解説動画（児童向け）

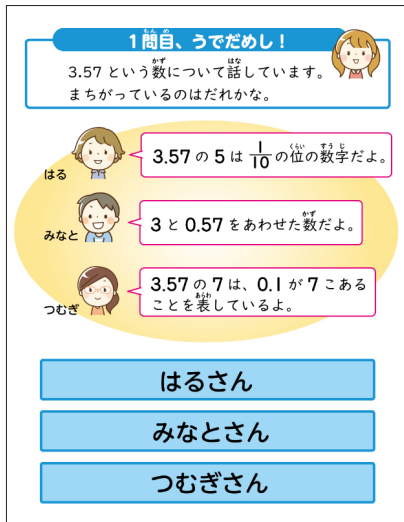
本誌の問題に取り組む前にご利用いただくことで簡単にすばやく要点の確認をすること



▲解説動画（国語）



▲解説動画（算数）



▲デジタル補充問題（算数）

ができます。また、本誌に取り組んだ後、わからなかった問題があるときにもご活用いただけます。国語では漢字の筆順アニメーション、算数では問題のヒントや解説、理科・社会では単元での大切なポイント、英語ではネイティブの発音が聞けるなど、各教科の学習を適切にサポートするコンテンツをご用意しています。各ページにあるQRコードを読み込むだけで、すぐに解説動画をご覧いただけます。

② デジタル補充問題（児童向け）

解説動画を見て本誌の問題を解き終えた後に、追加の問題に挑戦できる「デジタル補充問題」をご用意しています。デジタル補充問題も各ページのQRコードから簡単にアクセス可能です。児童が楽しみながら問題に取り組むことができ、詳しい解説付きで解答が表示されます。そのため、児童が一人で学習に取り組める充実した内容になっており、児童の自学自習のサポートとしてもご活用いただけます。

③ デジタル版確認テスト（先生向け）

確認テストを従来の紙テストとデジタル版の両方でお届けします。デジタル版確認テストは、問題配信から採点、集計までを自動で行うため、先生方の負担なく実施していただくことができます。

また、近年、全国学力・学習状況調査のCBT化が検討されています。デジタル版確認テストを通して、児童にCBT方式に慣れもらうこともねらいのひとつです。

3. 冬休み教材の付録

① 冬休みの確認テスト

冬休みに学習したことの定着を、従来の紙テストで確認することができます。（国語・算数）

② ひとこと日記

「ひとこと」なので無理なく続けることができます。一日の計画表も付いており、規則正しい生活を意識することができます。

③ ABCエンジョイシート

英語の発音を聞きながら、取り組むことができるワークです。アルファベットの練習や、チャレンジ問題に挑戦することができます。（『ステップアップ冬』5・6年）

4. しあげ教材の付録

① 総しあげテスト

要点をおさえた問題になっており、一年間で

学習した内容の定着を確認することができます。（1〜4年・6年）

② 学力調査練習シート

学力テストに対応した練習シートを収録しています。学力テストの練習としてご活用ください。（5年）

③ 英語のしあげ

実生活がテーマになったチャレンジワークです。英語の音声も聞くことができます。『しあげの名人』5・6年）

④ しあげプラス（別売り）

漢字・計算の要点を前学年分からしっかり復習することができます。使いやすい別冊解答付きです。

おわりに

「冬休み教材」「しあげ教材」には、「先生方の負担を減らしつつ、児童に復習しながら自主学習の方法を身につけてもらう」ための工夫を数多く詰め込んでいます。本教材を通して少しでも、先生方と児童の学習にお力添えできれば幸いです。是非使ってみていただければと思います。

※QRコードは、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

数学的に考える資質・能力の育成と 評価のための教材の充実



数学科専門委員 清水 美憲 先生
(筑波大学 人間系 教授)

改訂学習指導要領に対応する調査基準の設定

数学科では、全面実施を迎えた新学習指導要領と指導要録の趣旨をふまえ、学習指導が目指す方向と今日的課題を視野に入れて、修得教材と評価教材の調査基準を設定した。特に、学習者が数学的な見方・考え方を働かせ、日常生活の場面や数学の問題場面での数学的な活動を通して、基礎的な概念や原理・法則等を理解するとともに知識・技能を活用する力を身につけること、数学的に表現する力を身につけること、学ぶことの意義や有用性を実感すること等を意図して教材が準備されているかを主たる調査の観点とした。

調査にあたっては、指導目標に照らして問題が適切に展開され妥当であるか、問題の分量や内容の配分は適当であるか、当該学年に相応しい内容が扱われているか、そして企画・編集に創意工夫がみられその意図が具体化できているか等の観点から教材を分析した。また、特に、インターネットの利用等、ICTの活用の面での教材及び評価手法の工夫についても分析を行った。

教材の活用を取り巻く状況と評価の趣旨

近年、学校現場では、採用数年程度までの若手教員の割合が増大する傾向にある。今期の調査では、このような学校現場の実態と全国学力・学習状況調査等の結果にみられる課題をふまえ、教材設定の意図やその教育的価値にまで遡って検討し、教材の価値と理念について検討した。この検討に基づいて、各社の教材の特長（編集上の工夫やセールスポイント等）、数学的内容（教科目標からみた構成、展開、バランス等）の適切さ、今日的な課題への対応等について検討を加えた。

今回の調査は、中学校第二学年の教材に限定

して行われた。この学年は、文字式の利用や論証指導等、数学科の中核的な内容の指導の充実が求められる学年であり、「データの活用」領域における箱ひげ図の利用等、学習指導要領の改訂に伴う新しい指導事項も含まれている。これらの点で、各社は独自の編集の立場から良問を含む多様な教材を提供しており、教材には各社の特色がよく現れていた。

修得教材と評価教材の評価の実際

修得教材については、各社とも生徒の自学自習が可能ないように、また教科内容に加え学習方略も身につくよう工夫されており、全体として肯定的に評価された。特に、身の回りの事象や数学的な場面から数学的活動を引き出す良問を配置したり、基礎、発展、思考力の向上のように問題タイプにバリエーションをつけたりする工夫がみられた。一方、問題配列のための小単元の設定についての再検討や、問題の難易度の点検が必要な例も一部ではあるがみられた。

評価教材では、基礎・発展ともに内容がよく吟味されて配置されていた。また、生徒自身が学習成果を点検しながら学習を進められるよう工夫されている点、教材と解説のスペースや配色に注意し、使いやすい紙面構成を実現している点等、これまでの教材調査の継続によって、質の高い教材が準備されている様子が確認できた。その一方、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価問題の配置バランスの見直しが必要とみられるケースも見られた。

調査を振り返って

数学科分科会では、専門委員と教科チーフが第35期から継続して務める一方、2名の新しい調査委員を迎えて調査を進めた。いずれの委員も、学習指導要領の趣旨や教科書編集に精通された教材研究と指導経験の豊富な先生であり、調査は的確に行われ、充実した討議ができた。本調査結果に基づいて、生徒が教室や家庭で数学を楽しく学び、数学的に考える資質・能力を着実に身につけることができるよう、各社からさらによりよい教材を提供していただきたい。

理科総評



理科専門委員 宮内 卓也 先生
（東京学芸大学
先端教育人材育成推進機構 教授）

1. 調査の観点について

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）は令和3年度から全面実施され、準拠した学校教材が全国で使用されている。今回の改訂では育成すべき資質・能力が明示され、探究の過程を通して資質・能力を育成すること、科学的な見方や考え方を働かせること、主体的、対話的で深い学びの視点から学習過程の改善をはかることが強調されている。このような背景を踏まえ、調査の前提として、以下のような観点を設定した。

- ・科学の見方・考え方を働かせているか。
- ・科学的な思考力・判断力・表現力の育成が図られるようになっているか。
- ・日常生活と関連させることで、科学への関心を高め、科学を学ぶ意義や有用性を実感できるようにしているか。
- ・探究の過程（見通しを立てたり、振り返ったりする学習）を取り入れているか。

2. 調査を通した学校教材の評価と今後の課題

教科書に沿った問題、学んだことを活用する問題、入試問題の改題を含む応用問題等、段階的に取り組めるような構成となっている。加えて、定着が難しい数的処理や作図のページ、思考力や記述力の育成に関わるページ等の特設し、さまざまなニーズに対して柔軟に応じようとしている。

今後、各構成要素の問題の住みわけの妥当性や問題の質等を精査し、生徒の到達状況に応じて、さらに取り組みやすいものになっていくことを期待したい。

各問について、評価の観点毎にバランスよく出題しようとしている。知識・技能に関わる問

題は思考・判断・表現に関わる問題のベースになるものであり、限られた紙面のなか、重要性、汎用性が高いものを精選し、より本質的で重要なものが紙面に反映されていくとよい。また、穴埋めや用語説明に代表されるような知識、技能を問う問題も重要だが、概念的な理解を問う問題の充実も図りたい。

思考・判断・表現に関わる問題については、主に知識を活用して事象や概念等を説明するようなタイプが中心となっており、仮説や予想を立てたり、実験を計画したり、結果を分析、解釈したりするなど、探究の過程を意識した問題は少ない。また、「思考」とされながら、知識を問う問題となっているものも見られる。必ずしも記述の問題だから「思考」ということではなく、選択肢、短答の問題のなかにも思考力を問う良問はある。思考・判断・表現に関わる問題の検討がさらに進むことを期待したい。

日常生活や社会と関わる内容については、随所で取り上げられており、興味関心を高めたり、学んだことの意義や有用性を実感したりできるような配慮がなされている。脚注などの欄外部分も効果的に活用されている。

解答・解説のプリントや冊子については、正答だけでなく、間違いやすい点や、誤答例、採点のポイント、確認すべきポイント等が具体的に示されており、生徒が自学自習を進めやすいような配慮がなされている。

その一方、学校教材の問題は一般にひとつの正答に収束するものが多いが、資質・能力ベースの問題になればなるほど、多様な正答の存在が想定されることがある。そのような問題をどう学校教材として落とし込んでいくのかという点も、今後の議論が待たれる。

今回、じっくりと学校教材と向き合う機会をいただき、随所にさまざまな工夫があることを実感した。関係各位の日頃の奮闘に心から敬意を表したい。学校教材は未来を担う生徒たちにとって重要なものであることはもちろん、若い教員へ指針を与える重要な役割も担っていると感じている。今後の学校教材のますますの発展に期待したい。

英語科総評

3つの資質・能力の趣旨を生かした教材作りを

英語科専門委員 太田 洋 先生
 （東京家政大学人文学部
 英語コミュニケーション学科 教授）



3つの資質能力（「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」）について調査した結果から見えた全体的な傾向を説明します。

「思考力、判断力、表現力」の問題はコミュニケーションの目的の設定を

思考力、判断力、表現力（以下、思判表）の問題作成のポイントは次の通りです。話すこと、書くことではコミュニケーションの目的、場面、状況を設定すること、そしてそれに応じて内容と英語を自分が選ぶことです。調査した教材では、場面、状況は設定されているものが多かったですが、コミュニケーションの目的の設定がないものがほとんどでした。例えば書く場合は、自己表現の問題を思判表としていましたが、ほとんどの場合、基本文を使うことを前提にしている、しかも1文書けばいい問題になっています。これは内容も英語も選ぶことはないのも、思判表ではなく、知識・技能（以下、知技）の問題になっています。例えば、「あなたは今度新しく来るALTがスムーズに生活できるように私たちの街の紹介をメールで書きましょう」と目的を設定すれば、目的のために、相手を考えて、紹介する場所（お店など）とそのための英語を自分で考えて書くことになり、思判表の問題になります。

一方、読む問題に関しては、長文で場面を与えていれば、思判表としているものが多かったです。これもポイントは、コミュニケーションの目的、場面、状況に応じて、（読み手にとって）必要な知識、要点（筆者が1番言いたいこと）、概要（大まかな内容）を読み取ることです。コミュニケーションの目的、場面、状況を作るためには、指示文がキーになります。今回調査し

たなかからよい例を2つ挙げます。

- ・情報を読み取ろう！ アメリカでホームステイ中のあなたは、友達とランチでピザ店にきています。友達が次のようにいう場合、どんなメニューをお勧めしますか。（必要な情報を読み取る問題）
- ・先日オーストラリアへ帰国したALTのクック先生（Ms. Cook）から、あなたのクラス宛に手紙が届きました。クック先生はどのようなことを書いているのでしょうか。「手紙に書かれている順に次の話題を並べなさい」（概要を捉える問題）

なお、令和5年度全国学力・学習状況調査の読むこと、聞くことの思判表の問題、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（以下、「参考資料」）の事例2、3の問題を参考に改善するといいでしょう。

知識・技能は場面を与える

知識・技能の問題は従来の問題と変わっていないものがほとんどでした。知技のポイントはその言語材料がどのような場面で使われるのかを示すことです。問題作りのポイントは2つです。ひとつは文脈に入れること、もうひとつは関連した文法事項との使い分け（例えば、現在進行形と現在形）をさせることです。「参考資料」の事例4の73ページから76ページの問題例とペーパーテストやワークシートの問題の作成方法が参考になります。

主体的に学習に取り組む態度は言語活動で見取る

主体的に学習に取り組む態度（以下、主学態）は自己表現活動でターゲットの文法を使えるかどうかで見ようとする問題が大勢を占めました。主学態は言語活動のなかで見取るものですから、やはり、ALTとの一対一インタビューのような活動、教科書の単元末、学期末活動のなかで見取る方が適切であると思います。図書教材では何ができるのかは今後の検討課題になります。

中学校現場で知技、思判表をどう育成、見取るかは喫緊の課題です。図書教材の果たす役割に期待しています。

2022年度事業報告概要

I. 小・中学校教育等の振興への寄与事業

○教師等を対象としたセミナーやイベントの開催

各ブロックが企画する教師等を対象としたセミナーやイベントに対して運営の協力を行った。今年度の企画は次の通りである。

- ・九州ブロック「教材シンポジウムin長崎」
- ・近畿ブロック「教材フェスティバルin大阪」

II. 図書教材等の適切な普及と供給に関する調査研究事業

- 学校直販業界の任務、役割の確認
- 会員並びに社員・従業員の知識及び質的向上のための研究と研修

昨年度に引き続き、今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、研修会の開催が難しかったが、一部の協会・ブロックではオンラインも駆使して実施した。

- 市場拡大策の研究と実施
- 全国を対象とした災害復興支援の実施
- 小規模校、少人数学級対策等の研究
- 再販制度維持の調査研究
- 日図協との連携によるデジタル教材及びICTを活用した教育に関する調査研究

文科省からの要請により、「教科書・教材・ソフトウェアの在り方ワーキンググループ」及び「学習eポータルに関する専門家会議」に森達也理事が、学習指導要領コードに関する調査研究の「専門家分科会」に渡部竜士専務理事が委員としてそれぞれ出席し、会議において教材

業界への理解を広げるとともに、事務局を通じて協議内容を役員に報告した。

○教材等著作権保護委員会との共同による図書教材等の著作権保護に関する啓発宣伝

教材等著作権保護委員会と共同で深刻な被害を生じている図書教材等の複写複製利用の阻止対策を実施した。

- ネットオークション対策
- 業界ネットワーク構築の推進

○文部科学省「土曜学習応援団」への協力
文科省からの要請で「こども霞が関見学デー」に全図協ブースを出展したほか、オンライン配信による協会の紹介などを行った。

○PTA団体との連携

日本PTA全国協議会からの依頼により「令和4年度年次表彰式」に来賓として渡部専務理事が出席した。

III. 図書教材業界の発展のための研究と啓発宣伝事業

- 図書教材と業界の価値、役割の啓発宣伝
- 都道府県協会の会員名簿の各教委への送付
- IV. 事業推進のための組織強化活動

○都道府県協会組織の強化
都道府県協会と出版社の双方協力のもと、相互連携の強化を図り、各協会の円滑な運営、各種研修会の実施、協会育成強化費（拠出金）の実施、功績者の顕彰、その他各協会の事業・活動がより充実したものとなるための諸施策等を行った。

○ブロック活動と小・中学部会の充実
○各都道府県協会、各会員販売店間の情報交換の促進

○各都道府県協会会員販売店及び従業員の福利厚生の上
(主なもののみ)

2023年度事業計画(主な事業の具体案)

1. 会員並びに従業員のための研究と研修

○会員並びに従業員のために、オンラインも活用してさまざまな課題に対する研修会等を企画・実施する。

○会員並びに従業員のための体系的な研修制度として、日本教材学会との合同委員会を中心に「教材士研修制度・基礎コース講座」を運用していく。

2. 教育のICT化に対応して協会として取り組むべき課題の整理と対策

◇教育のICT化への対応として、日図協と連携しながら、各自治体の取り組みや市場の動向の情報収集とその共有、及び広報活動をはじめ協会として取り組むべき課題の整理と対策を検討する。

3. 日本教材学会との連携と、活動への積極的な参加

◇日本教材学会の活動に積極的に参加し、教材の質と業界の地位の向上及び会員並びに従業員の知識及び質的向上を図る。

4. 日本PTA全国協議会(日P)との連携

◇日Pの「広報に関する研究会」に参画し、日P並びに各関連団体と連携して広報活動を研究する。

◇日 P の全国及びブロック研究大会で都道府県協会や会員販売店、教材に関する宣伝活動を進める。

5. 会員販売店向け販売管理システム「全販システム」の運用、改善と、加入促進

◇「全販システム」の運用、改善と、加入促進（希望販売店の説明会や働きかけ）を行う。

◇販売店の業務の効率化をサポートするために、「全販システム」の機能追加等の改修を検討する。

6. 学校用教材のインターネット等を経由した転売行為への対策

◇インターネットオークションやフリーマーケットサービス運営企業と共同して対策を進めていく。

◇見本本を通じた啓発の研究や、見本本の管理・回収の徹底などを推進していく。

7. 教師等を対象としたセミナーやイベントの開催への支援

◇各協会やブロックが主催する教師向けのセミナーやイベントに対して支援を行うとともに、申請に応じて助成金支給規程に則り助成する。

8. 小・中学業界の諸課題の協議をふまえた各種取り組みの推進

◇ブロック小・中学部会長会議と出版社営業部長との協議会での取り組みについて推進していく。

【ブロック小学部会長会議】

○小規模校対策
各地の取り組みも参考にしながら、引き続き販売店側で主体的に取り組める対策を検討し

ていく。

○見本の簡素化

・2023 年度の新学期見本において各出版社で行った対応をふまえて引き続き出版社側で研究していく。

【ブロック中学部会長会議】

○「子どもたちのみらいの学びを支えるプロジェクト（略称…みらいの学びプロジェクト）」

・営業部長会とブロックとの意見交換会を年 2 回営業部長会に合わせて開催。今年度は東海ブロック（12 月 5 日）と四国ブロック（2024 年 7 月）での開催を予定。また、再来年度には近畿ブロック（2024 年 10 月）で開催予定。

・その他の企画として、「業界の明日を考える会」の全中版として、役員以外の会員や販売店の従業員、出版社の営業・編集担当のほか、可能であれば教員も交えて意見交換できる場の創出について営業部長会を中心に検討していく。

○全中・メールマガジンの運用

・メールマガジンの企画や内容の充実につとめる。

○見本の在り方

・デジタル化や抜粋見本等の簡素化等について、販売店や学校現場が求めている見本形態に関するヒアリングの実施。

【小・中学共通の協議事項】

○教育現場の ICT 化への対応として、各自治体の取り組みや市場の動向の情報収集とその共有、及びこれからの小・中学業界のあり

方の研究、協議。

○自治体等による教師用書の取り扱いに関する情報共有。

○物流における 2024 年度問題への対策。

○教材の価値・役割や学校による主体的な採択等に関して、教育委員会等へ伝えていくための宣伝ツールの作成。

※詳しい事業報告・計画、決算・予算については、協会ホームページ (<http://www.nitor.jp>) の「会員の方へ」(パスワード: kasei166) からご覧いただけます。

* * * * *

編集後記

文科省が 7 月に公表した「初等中等教育段階における生成 AI の利用に関する暫定的なガイドライン」に、「ファクトチェック」（情

報の真偽を確かめること）という言葉が出てきます。偽・誤情報が氾濫するいま、生成 AI も 100% 正しい回答を出すわけではなく、学校で「ファクトチェック」を教えることは容易ではありません。そこで役立つのが資料集を代表とする学校用教材ではないでしょうか。正確な情報に加えて、学習課程にそった内容がまとめられている資料集は、「ファクトチェック」に最適な教材といえます。これからの課題に合った教材として提案していくことが私たちの使命ではないでしょうか。

（竜）